

多摩デポ。ホ通信 第1号

NPO共同保存図書館・多摩

〒立川市高松町二―二〇―二

2007年1月9日発行

●depo_tama@yahoo.co.jp

●ホームページ作成中

●郵便振替 00170-8 - 610534

年頭にあたって

理事長 座間直壯

さまなおよし

明けましておめでとございます。

「きっかけは『東京にデポジットライブラリーを 多摩発、共同保存図書館基本構想』（ポット出版）という本の発刊でした」と言っても良いと思います。二〇〇三年一二月に、多摩の住民、公共図書館員、図書館員OBなどによる「多摩地域の図書館をむすび育てる会（略称……多摩むすび）」の手で発表されました。

それからの経過はいろいろありますが、年頭の挨拶です。ので省略させていただきます。昨年（二〇〇六年）五月十七日、任意団体として私たちの「NPO共同保存図書館・多摩（略称：NPO多摩デポ）」が誕生しました。図書館に係る多くの方々呼びかけ人をお願いし、会員募集を開始しました。同時に会の趣旨に賛同していただける方にも呼びかけ、予測を超える多くの方々から会員参加や賛同人としてお名前を寄せていただきました。本当にありがとうございます。改めてこの活動の意味と、期待の大きさを実感しております。

昨年の主な活動は、まず九月に和光大学付属梅根記念図書館主催で行われたシンポジウム「本を捨てるな！〜共同保存図書館という可能性〜」に参加しました。一二月には「NPO多摩デポ」として初めてNPO共同保存図書館・多摩を肴に大いに語ろう！〜ちよっぴりビア&ピーナッツ」を開催しました。一般市民の方々も大勢参加され、資料保存に関する生の声を数多く聞くことが出来、大変な成果を頂くことが出来ました。今年も様々な学習やボラン

NPO共同保存図書館・多摩」役員名簿

役職	氏名	所属肩書等
理事長	座間直壯	元調布市立図書館長
理事	石井紀子	実践女子学園生涯学習センター
理事	清田義昭	出版ニュース社代表取締役
理事	黒子恒夫	元保谷市図書館長
理事	田中ヒロ	元都立図書館司書
理事	津野海太郎	和光大学教授
理事	平山恵三	エル経済研究所
理事	吉田 徹	元東大和市立図書館長
事務局長	斎藤誠一	千葉経済大学短期大学部助教授

ティア活動の機会を設け、図書館の使命や役割について会員の皆さんと一緒に考え、「共同保存図書館」を実現させる活動を発展させていきたいと考えています。「共同保存図書館」設置の道程は想像を超え

る厳しさがあると思いますが、多くの方々のご支援・ご協力を賜り、着実な歩みを進めていきたいと考えております。理事・事務局、会員の方、そ

して一般市民の方々と一丸となつて「共同保存図書館」の仕組みづくりを目指していきたいと思つています。

本年も、皆様の一層のご指導・ご鞭撻をよろしくお願ひ申し上げます。

**多摩市町村立図書館
館長協議会后保存指定資料
シール貼りボランティア**

I
私たちが、市町村立図書館の日常の資料提供サービスの

後ろにはそれを支える共同保存の仕組みが必要なのではないかと考え始めたのは、東京都立図書館の縮小・再編問題がありました。

二〇〇二年、都立図書館が行つた一方的な蔵書の大量除籍に対して、「除籍をするな」と反対運動を展開しつつ、最後に――捨てられてしまうから散逸を避けて全冊を引き取つて生かし方を考えようと市町村立図書館長協議会として引受けた約五万冊の本（以下「五万冊」と総称）がそれから未処理のまま町田市で保存されてきました。

二〇〇五年度の館長協議会は、この五万冊の本の整理作業（多摩地域の市町村立図書館が所蔵している資料との重複・非重複の検索調査と現物の仕分け・引き抜き）に取り組みました。

〇五年の夏には「五万冊」と各市町村立図書館蔵書との横断検索による重複調査が行われ、市民ボランティアも自宅のパソコンから参加しまし

た。（多摩の市町村立図書館でどこも所蔵していない資料、一冊しか所蔵していない資料は都立除籍の現物を保存。また多摩地域で一冊のみ所蔵の場合は、所蔵の館で市町村側の蔵書の方も保存、二冊以上所蔵しているものは保存担当館を決め、市町村の蔵書を最低限二冊は保存しようということが決められたのです。）

続いて「五万冊」の現物を町田市から武蔵野市図書交流センターに運び込んで、二二月に行われた箱開け引き抜き作業には、延べ百人以上の職員、ボランティアが参加しました。これは「多摩むすび」が呼びかけた市民ボランティア

アと図書館の出張職員が共同で作業を行うという、画期的なできごとでした。

II

今回、私たち「NPO共同保存図書館・多摩」が請け負つている市立図書館の蔵書への「保存シール貼り」は、その作業に続くものです。各市はその蔵書量に応じて分担保存資料が指定され、「保存資料シール」が配布されました。しかし図書館の日常業務をこなしながら、シール貼り作業を行うのは難しい、なかなかすすんでいない、という状況が伝わってきました。そこで、私たちのNPOがボランティアとして引き受けようと手をあげたのです。

まず依頼してくれた西東京市、日野市での作業が終わり、次に国分寺市の作業も予定さ

れているところです。

III

最初の西東京市図書館では、一〇月一七日〜二〇日（中央図書館）、一〇月二四日〜二七日（ひばりが丘図書館）の日程（のべ8日間×1日3人）で、計14人が参加しました。約3000冊のシール貼り、4000件以上の保存フラグデータ入力を終了することができました。

第二弾は日野市立図書館。一二月五日〜一二日、平山図書館、中央図書館、市政図書室の三館（のべ7日間×1日2〜3人）で作業を行いました。計16人の参加者のうち、初めての方が8人と、ボランティアの輪は確実に広がっています。市政図書室の薄い資料がぎつしり詰まった書架の前では、しばし呆然。最初はなかなか探せなかったものが、

慣れるにつれて見つかったく、楽しさも味わいながら、約2700冊の蔵書にシールを貼りました。

どこの館でも、気を遣ってくださり、気持ちよく作業ができています。受け入れてくださる図書館職員の皆さま、ボランティアに名乗りを上げ参加された皆さま、ありがとうございました。ごいます。会員の方、チャンスがあれば、ぜひ保存シール貼りに参加を。未知の図書館の書庫に入るの面白いです。

まだ保存シール貼付のノルマを終了できていない図書館は多いはず。ぜひ「多摩アポ」にご依頼ください。

カット貼付スペース

〇久しぶり出会った友人に、ちょっと遠いし……と遠慮しつつ声をかけたら、即OK。日野市立平山図書館でのシール貼り作業に参加、NPO会員にもなってもらいました。そんな市民から日野市でのボランティアの後にいただいたお手紙。

「さっそく資料等送っていただき、ありがとうございます。図書館長協議会関連の資料は、共同保存についての現段階の考え方と課題を見せ、興味深いものでした。私も図書館が好きなので、とても楽しんで手伝わせていただきました。次回もちゅうちよすることなく、どうぞ連絡ください。」

元府中市立図書館長 朝倉雅彦さんからの手紙

図書館にかける夢は一日たりとも忘れたことはありません。が、図書館について耳にすることは、日々、芳しくないことばかりでした。このたびのことは二一世紀幕開けにふさわしい快挙です。

一九七九年にアメリカのワシントン州で、共同図書館を見学しました。これは州内各図書館を組合員とする組織でした。この時は切実な理解はありませんでしたが、今日では切実を通りこしていると言えます。行政の現実では非情にきびしいことは重々わかっていますが、多摩地区の市町村立図書館はまとまりがよく地方自治法にもとづく組合が自治会館、人事組合ほか、多々あります。

NPOは図書館長会、教育長会、市長会、町村長会などと強力にタイアップして「組合立」にこぎつけて下さい。

かつて、新しい図書館は多摩地区から全国に波及しました。この多摩共同保存図書館の設立は、必ず、全国に波及します。我が国文化の発展には、はかり知れないものがあります。(06・10・5)

★新呼びかけ人／森村誠一さんからのメッセージ

「本を廃棄するということは、文化(悪い文化を含めて)を捨てるということを意味します。たとえ悪い文化であっても、人類の文化を保存することとは、人類の知恵と記録の共同倉庫の資料として、人類の将来の英知の蓄積のために、反省をふくめて必要であると考えます。」

◇まもなくNPO多摩デポホームページが立ち上がります!

現在、NPOのホームページを準備中です。お試しバージョンは、すでに見ることができます。

http://www.geocities.jp/depo_tama/index.html

「NPO共同保存図書館・多摩」というサイト名でもヒックさせられます。

まだ多くの情報が未完成のままです。心苦しいかぎりですが、できるだけ早くきちっとしたホームページが発信できるように準備を進めていきます。

サイト内容は、(こんな会です)〈共同保存図書館とは〉〈活動内容〉〈呼びかけ人〉〈入会・寄付〉〈事務所〉、となっており、各項目の内容充実を図っています。

なお、NPOができるまでの経過等については、三多摩図書館研究所のホームページをご覧ください。

<http://www.hinocatv.ne.jp/~jelhys>

NPOを立ち上げるきっかけとなった「都立多摩図書館があぶない!」縮小再編反対の取り組み経過やその後の「多摩地域の図書館をむすび育てる会」の活動がわかり、文献なども充実しています。

★図書館の夢を現実に

事務局長 斎藤誠一

あけておめでとうございます。

昨年は、図書館長協議会の取り組みに連動しながらNPOとして当面できることを考えてきました。

武蔵野市図書交流センター

にある資料のチェックが終わり、各図書館で保存担当分のシール貼付作業が始まりました。NPOとして、西東京市と日野市の貼付作業をバックアップし、次は国分寺市の作業を請け負うことになりました。一二月二日には皆さんと理事の交流集会も行うことができ、会員も徐々に増えています。

まだ幾つものハードルを越えなければなりません。図書館を考える多くの市民、職員とともに、一つひとつ乗り越えていきたいです。

多摩地域の取り組みは、日本の公共図書館行政をリードするものだと思います。資料を保存し、提供することは図書館の基本的な機能です。共同保存という夢を必ず現実のものにします。

今年もよろしく願っています。

△▲二月二日 対話・交流
集会をひらきました▼▽

「NPO共同保存図書館・多摩を肴に大いに語ろう〜」
ちよびり「ビア&チ

調布市国領のあくろすホールで「NPO共同保存図書館・多摩を肴に大いに語ろう」の呼びかけに、約五〇人の方が参加し、「保存」「図書館」「NPO」についての考え・思いを語りあいました。

プログラムは二部構成です。座間理事長の挨拶のあと、「NPO設立経過と、活動報告」(田中ヒロ理事)「多摩地域市町村館長協議会の動き―〇五年七月以降」(中川恭一)の報告に続き、津野海太郎理事が、共同保存図書館を作る意義について語りました。

―かつて多摩地域の図書館は貸出しを中心とした利用を前面に押し出して公共図書館の運動を推進してきた。「利用」は文化資産をいつでも提供できるように「保存」していることを前提としている。

しかし、保存するスペースを持たない図書館は新たに本を入れたらそれに対応して本を捨てざるをえなくなっている。〇四年には、多摩地域全体で、利用の少なくなった本を六〇万冊以上廃棄している。保存は、最終的には国立国会図書館、そして、東京都でいけば都立図書館の役割だが、今都立図書館は再編成のもとに責務を放棄しようとしている。都の方針転換を待っていることはできない。

多摩地域の図書館が今、「共同」「保存」のための運動をすることは意味があり、当然の

結果とも言える。この図書館活動に不可欠の「保存」を再定義しぴかぴかに光らせて、カッコウいいものにしてゆこう。このNPOは、自力でできるところまで「保存」に取り組み、その成果を問うことにより都の方針を転換させてゆくことを選んだ結果できた。

報告後は第2部「ビア&チツプス」に移り、グループ交流と全体交流をして参加者がこの運動にたいする意見、期待、疑問を語りました。会員よりは、一般参加者のほうが多く、会にたいしても率直な意見ができました。

*多くの本が捨てられている現状にびっくりした。

*どんなことを目指しているのか知りたい。

*本を捨てざるを得ないので図書館職員として、とても苦しい思いをしている。

*実際にNPOが運営できるのか危ぶんでいる。

*一般市民が参加するには会費が高い。

*都立図書館の元職員の多くは、これまで一步一步築いてきたものを崩す方向に都立が進むので、情けない。

*共同保存図書館を多摩以外にも作りたい。

*武蔵野市図書交流センターでの作業はなかなか愉快な仕事だった、今後もシール貼りなどに協力したい。

*多摩地域にはNPO活動の先例に市民活動資料センターなどがあるので参考に。

*会を広めるのにもっと有効なPRをしたほうがよい。

カット貼付スペース

●現在の会員数は、123人と2団体となっています。
 ●まだまだ組織も活動もこれからのNPOですが、そんな会をつないで「多摩デポ通信」はこれから年四回発行する予定です。会員、呼びかけ人、賛同人の方々には別添資料も付けて郵送していきます。

NPO 共同保存図書館・多摩 呼びかけ人

追加参加いただき 2006年12月末現在29名

名前	所属・役職
池井 優	慶應義塾大学名誉教授
糸賀 雅児	慶應義塾大学教授
岩井 幹明	日本親子読書センター
大高 利夫	日外アソシエーツ(株)代表取締役社長
加藤 暉子	日野市の学校図書館をもっとよくする会
斎藤 慎一	青梅市文化財保護委員会会長
佐々木 順二	東京の図書館をもっとよくする会代表
佐藤 浩二	多摩信用金庫理事長
塩見 昇	日本図書館協会理事長
末吉 哲郎	図書館サポートフォーラム代表幹事
塚原 博	実践女子大学
辻 由美	著述家
津田 櫓冬	画家
根本 彰	東京大学教授
芳賀 啓	(株)之潮代表取締役
馬場 憲一	法政大学
林 望	作家
藤沢 和男	元日野市立図書館長
船崎 尚	元武蔵野市立図書館長
本間 浩	法政大学教授 前小平図書館友の会会長
増山 正子	町田の図書館活動をすすめる会
松田 哲夫	筑摩書房
宮川 ひろ	児童文学作家
森 まゆみ	作家・地域雑誌『谷中・根津・千駄木』編集人
森村 誠一	作家
矢崎 省三	東京農工大学図書館
山口 源治郎	東京学芸大学教授
山領 健二	神田外語大学名誉教授
山家 利子	市民活動サポートセンター・アンティ多摩

●今回は、一二月二日「ピーナッツ」集会で説明にお配りした二種類の自作資料および三つの新聞記事のコピーを同封しておきます。

●朝日新聞は「ピーナッツ」予告記事ですが仙台市からも反響がありました。日経新聞は広い視野で私たちの動きの意義を語ってくれ興奮します。

●都政新報は多摩市長会の注目すべき動きを伝えていきます。
 ●一頁目の役員名簿に追加。NPOの監事として国分一也(武蔵村山市立図書館)。